オンライン診療支援

沖縄セルラー・メドレー

高齢者施設で実証開始

沖縄セルラー電話（那覇市）と医療プラットフォーム事業を手掛けるメドレー（東京）は1日、県内の医療機関と高齢者施設を結ぶ、オンライン診療の普及に向けたサポート事業を開始した。

オンライン診療の普及によって移動や待ち時間がなくなるため、入居者や付添人の新型コロナウイルスの感染リスク低減が図られるとして、県内での事業拡大を目指している。

事業はメドレーのオンライン診療システム「CLINICS」を活用し、沖縄セルラーは高齢者施設にオンライン診療用のタブレット端末の無償提供、通信環境の構築などを進める。

両社は1日に沖縄市の東部クリニックと同市の高齢者施設「シルバーホームりんご」を結び、オンライン診療の実証を開始した。東部クリニックの比嘉靖院長は「（介護施設では）感染予防のために高齢者の接触が厳しく制限され、高齢者が受診を控える傾向にある。受診自粛による高齢者の病状悪化が少しでも回避できればと考えている」と利点を語った。

沖縄セルラーで同プロジェクト責任者の田中健介さんは「（オンライン診療は）受診するためのデバイスを持っていなかったり、小さなスマートフォンの操作に不慣れだったりする課題があった。タブレットを無償で貸し出すことで必要な通院が継続できる支援をしていきたい」と語った。

沖縄セルラーは「CLINICS」の代理店業も担い、利用施設の拡大を目指すほか、将来的にはアプリを通して個人でもオンライン診療が受けられる環境整備も目指す。



医療機関の医師と「CLINICS」でつなぎ、診療を受ける高齢者（沖縄セルラー提供）

沖縄タイムス

オンライン診療を支援

沖縄セルラー 高齢者に端末提供

新型コロナウイルス感染防止のため、病院受診が困難になっている高齢者をサポートしようと、沖縄セルラー電話（那覇市、湯淺英雄社長）は1日、県内の高齢者施設へのオンライン診療システムの導入を支援すると発表した。オンライン診療システム開発を手掛けるメドレー（東京都、瀧口浩平社長）と連携し、普及を目指す。

沖縄セルラー電話が高齢者施設にタブレット端末を無償提供し、メドレーのオンライン診療システム「CLINICS（クリニクス）」の導入を進める。東部クリニック（沖縄市、比嘉靖院長）と住宅型有料老人ホーム「りんご」（沖縄市）で実証し、県内医療機関や高齢者施設への普及を進める方針。

クリニクスは、診療の予約から問診・診療・決済までをワンストップでできるアプリ。病院を選んで予約し、画面を通して医師の顔を見ながら診察が受けられる。決済は、クレジットカードのみに対応しており、利用者はアプリを通して診療代を支払う。処方箋は、病院から薬局にFAXで送付し、薬局の担当者が利用者に薬を配達する。

医療機関がクリニクスを導入する際は費用がかかるが、高齢者施設や利用者に対する初期費用の負担はない。

県内ではコロナ感染防止のため、高齢者が病院受診を控える動きが広まっているという。施設によっては感染防止から家族との面会を禁止している所もあるため、3～4時間かかる受診の付き添いをスタッフが代行しており、介護現場の負担は深刻な状況にある。

沖縄セルラー電話プロジェクト推進室の田中健介グループリーダーは「オンライン診療の導入は、現場の負担軽減につながる。ぜひ活用してほしい」と呼び掛けた。

オンライン診療の問い合わせは同社うちなーSmartLife推進グループ、電話080（6494）0012。



オンライン診療を受ける入居者（右下）と付き添うケアマネジャー＝沖縄市の住宅型有料老人ホームりんご（沖縄セルラー電話提供）